

科目名 Subject	美容心理学 Beauty Psychology			教員名	五十嵐 靖博	
開講年次	2	開講時期	前期	単位	2単位	
必修／選択	選択	授業形態	講義	時間	30時間	
実践的教育	○					
主な学習効果	知識・技能	主体的行動力	課題解決能力	多様な価値観や考え方を理解し、受け入れる能力	日本の伝統と文化を理解し、美意識を備えて行動できる能力	美しく生きる力を実践できる能力
	◎	○	○	○		
科目の概要	自分や他者を理解し、日常生活や美容にかかわるさまざまな職業的实践に適用するには、人間に共通する心のメカニズムと個々の人の個性を作り上げている心的特性を理解する必要がある。本科目では美容にかかわる諸現象と日常生活の中で経験される思考や感情や行動を、心理学の諸理論をとおして説明する。美容と心の関係を心理学的研究にもとづいて考察する。本科目で習得した心理学に関する知識や技能を活かし、日常生活や職業的实践において多様な価値観や文化の意義を踏まえ、自ら主体的に解決すべき課題を見だし応用する場面を構想し、多様な価値観や考え方を理解して受け入れる能力を涵養できる。					
授業方法	対面授業を主としつつ適宜、ZOOMによるオンライン授業も活用する。					
授業の目標	心理学の視点から美容に関するさまざまな現象への理解を深め、日常生活や美容にかかわる職業的实践で役立つ知識を習得する。人間に共通する心のメカニズムを理解し、その性質を踏まえたうえで実生活で活用できる。また各種の美容にかかわる職業的实践において活用できる。心理学の知見を美齢学に適用できる。					
時間外学習 (予習・復習)	本科目は2単位、1コマ開講の科目です。予習に120分、復習に120分、合計240分の時間外学習が求められます。授業前に60分、教科書や参考資料を確認し授業後に90分、配布資料などを改めて読んで理解を深めてください。その後、90分を当ててワークを行ってください。授業ごとにワーク課題を提示します。					
教科書・教材	教科書	齋藤勇著『イラストレート心理学入門（第3版）』 誠信書房 2020				
	教材	適宜、資料を配布する				
	使用設備・備品	なし				
	参考文献	『ヒルガードの心理学（第16版）』 ブレーン出版 2015				
評価方法	次の3点を総合的に評価します。平常点20%、ワーク20%、期末レポート 60%					
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
学生へのフィードバックの方法	レポートに対して、コメントを返します。					
履修上の注意	日常生活の中で人の心や行動について疑問に思ったことを思いだし、授業を通してそれを説明できるよう努めてください。					
本科目履修と関連する資格	資格名	なし				

授業計画			
	授業内容	到達目標	時間外学習・備考
第 1 回	心理学の諸概念，行動の意味，心理学の研究法について学ぶ。	心理学とは何かを説明できる。	心とは何かをよく考え，自分の意見を明確に説明できるように準備しよう。授業後に自他の心観を心理学用語を用いて説明するワークを行い、提出する。予習と復習に240分を当てること。
第 2 回	五感，視覚の重要性，目とカメラの構造的類似性を理解する。	知覚の基本的なメカニズムを説明できる。	予習として眼の構造をよく考え視覚の仕組みを自分なりに説明できるようにする。復習として視覚の諸事例を説明するワークを行い、提出する。予習と復習に240分を当てること。
第 3 回	錯視などの知覚現象と外見・美容の関係を理解する。	知覚と美容の関係を説明できる。	予習として知覚のメカニズムを専門用語を用いて説明する。復習として美容におけ錯視の例を自分で考える説明するワークを行い、提出する。予習と復習に240分を当てること。
第 4 回	パーソナリティの成り立ちと美容行動の関係を理解する。	パーソナリティについて説明できる。	予習としてパーソナリティをどう考えているか，様々な場面で例をあげて説明する。復習としてパーソナリティを理論的に説明するワークを行い、提出する。予習と復習に240分を当てること。
第 5 回	自他のパーソナリティをどのようにして測定するか、理解する。	パーソナリティ検査について説明できる。	予習として今までに受けた心理検査をあげ説明する。復習としてパーソナリティ検査の構成を説明するワークを行い、提出する。予習と復習に240分を当てること。
第 6 回	小集団とそのメカニズム。美容の仕事の職場における心理学について学ぶ。	社会的行動の基礎と美容関連職の職場の心理学的特性について説明できる。	予習として人間関係が自分に与える影響を具体例をあげて説明する。復習として集団力学の用語を用いて日常の事例を説明する。予習と復習に240分を当てること。
第 7 回	服従と社会的役割に関する諸研究を学ぶ。	職場集団のメンバーの行動を社会心理学の視点から説明できる。	予習として自分になっている社会的役割を具体例をあげて説明する。復習として職場集団における事例を理論的に説明するワークを行い、提出する。予習と復習に240分を当てること。
第 8 回	ストレス、ストレッサー、汎適応症候群について学ぶ。	ストレスとは何か、説明できる。美容の仕事で経験しうるストレスを説明できる。	予習として自分自身のストレスの例をあげ具体的に説明する。復習としてストレスの諸影響を理論的に説明するワークを行い、提出する。予習と復習に240分を当てること。
第 9 回	不安障害と心身症について学ぶ。	ストレスと心の障害の関係、予防法や治療法を説明できる。	予習として不安とは何か、自分の経験からその影響を具体的に説明する。復習として自分になりやすい心身の障害と対処法を説明する。予習と復習に240分を当てること。
第 10 回	うつ病、統合失調症について学ぶ。	うつ病や統合失調症について説明できる。	予習として教科書を読みうつ病と統合失調症について自分の理解と比較する。授業後、身近な人が治療を受ける場合にはどうすればいいか具体的に説明する。予習と復習に240分を当てること。
第 11 回	エステの心理学について学ぶ。	エステティックが心に及ぼす効果を説明できる。	予習としてエステの心への作用を考え事例をあげて説明する。復習として個々の施術と心的効果の関係を理論的に説明するワークを行い、提出する。予習と復習に240分を当てること。
第 12 回	魅力の心理学について学ぶ。	自他の外見が認知や魅力にどう影響するか、説明できる。	予習として魅力とは何か、心身やその他の視点から説明する。授業後、魅力的な人の具体例をあげ心理学的に説明するワークを行い、提出する。予習と復習に240分を当てること。
第 13 回	美の社会的構成、ボディ・ポジティブの重要性を理解する。	美の基準がどのように作られ、心にどう影響するかを説明できる。	予習として自分が美しいと思うものを4つ以上あげ、説明する。復習としてそれらの例が心理学理論によってどのように理解できるか、具体的に説明する。予習と復習に240分を当てること。
第 14 回	美齢学へ向けて心理学を活かす。	心理学と美容の関係を理解し、美齢学の意義を説明できる。	予習として美齢学とは何か、具体的な内容を資料を読んで調べる。授業後、自分の生活と美齢学、心理学の関係を具体的な事例をあげて説明する。予習と復習に240分を当てること。
第 15 回	授業を振り返り、疑問や課題を整理して解決する。	全体として講義内容を振り返り、理解を深め日常生活や職業的実践に適用できる。	予習として講義内容を振り返り疑問等を整理する。授業後、わからない点を明確に説明する。また心理学について自分の考えを述べるワークを提出する。予習と復習に240分を当てること。